

神光寺横穴古墳群

八柳 修之



神光寺の左側は駐車場となっているが、お寺の左側の崖斜面には、ぽっかりと開いた穴が二つ見られる。藤沢市指定史跡神光寺横穴墓である。説明板がありこう書かれている。「横穴墓は丘陵斜面や崖面に横穴を彫り、死者を埋葬する墓で古墳時代に造られた横穴系の埋葬施設の影響を受けて 5 世紀に九州北部で造られ始めました。横穴群は有力者の墓であったと考えられており、藤沢市内では 6 世紀後半頃から 7 世紀代を中心に造営され、神

光寺古墳群の位置する片瀬丘陵では数多くの横穴墓が造られました。神光寺古墳群は昭和 43 年に横穴墓 7 基の調査が実施され、土師器片、須恵器片などが確認されています。玄室では遺体を安置する棺座が玄室に床面から高い位置に造られており、地域的な特徴とされ、市内の古墳時代を考える上で貴重な史跡と言えます。市指定・史蹟、昭和 52 年（1977）4 月 30 日」とある。

（注）土師器とは主に煮炊きの食器、須恵器とは貯蔵や供膳などに使われた土器

児玉幸多編「わがまちのあゆみ藤沢」によると、「古墳は一つの遺骸を埋葬する施設であったのに対し、横穴墓は一つの施設に何人もの遺骸を埋葬した例が多く、家族の墓であったことである。また横穴墓は単独で存在する例が少なく、そのほとんどが十数基を単位として群れで構成されているとのことである。藤沢ではとりわけ片瀬川左岸の片瀬丘陵の川名から片瀬の龍口寺にかけての丘陵斜面には 200 に近い数の横穴墓が存在するようである」と述べている。この本が出版されたのは昭和 58 年（1983）である。以前、FWA の会員で片瀬にお住まいの I さんのお話では、宅地開発、奥田公園（どぶ田であった）の埋め立てのため、片瀬丘陵から土砂が削りとられてしまったというお話を聞いたことがある。残念な話であるが、片瀬山を切り崩し造成したマンションの上に住んでいる自分である。

横穴墳墓 2 穴に沿って奥に進む道がある。左側は農地であるが横穴墳墓側は住宅地となっており、他に横穴古墳があるのか確認できなかったが、家と家の間を通る細い道があった。もろい砂岩のため崩壊防止のため一面コンクリートで覆われていた。そんな中、養生されず、岩をくり抜いた中にお墓が収まっていた。年代が比較的新しいお墓のように見受けられた。再び本道に戻り進むと林石材産業の倉庫があり行き止まりになって、右側は広大な神光寺の墓であった。一番立派なお墓は砂川さんのご本家と見られるお墓で寛永年代の戒名が見られた。

お墓を掃除していたご婦人がおられたのでお伺いすると、もとは川名の地蔵尊辺りにお墓があったが、県道 32 号線の工事によって、ここに移転して来たものなのですとのことであった。 その 6 完